

記念物
【天然記念物】

のそこ
野底のヤエヤマシタン自生地
Pterocalpus indicus Willdnow

じせいち
指定年月日／
2006(平成 18)年 8 月 3 日
所在地／野底 800-1



ヤエヤマシタンはマメ科に属する落葉高木で、中国南部、インド、東南アジアに分布し、国内では石垣島のみで自生している。世界に約 20 種あるシタン属の分布域の北限である。かつては石垣島各地に自生していたが、有用材として乱伐され、現在確認されている自生地は平久保・野底・山田・川平の 4 ケ所のみである。

野底の自生地は、2005 (平成 17) 年に新たに確認された場所で、字野底兼城集落の東側、海拔約 40m の丘陵地斜面に位置する。石垣島のヤエヤマシタンについて、『第 2 回勸業博覧会出品解説書』(1881 年)に「宮良間切ノ野

底山中ニ産シ」、また、河原田盛喜著『沖縄物産志』(1884 年)に「野底村ヨリ伊原間ニ跨ル山林二三里ノ間ニ大木多ク繁茂セリ」とあり、かつてはヤエヤマシタンが野底一帯の山林に多く自生していたと思われる。

野底の自生地には樹高 7.3m、主幹直径 47.8 cm のヤエヤマシタンの成木 1 本が自生している (計測値は 2005 年調査時)。成木周辺には 6 本の幼木が確認されており、小規模ながら自生地の環境が維持されている。

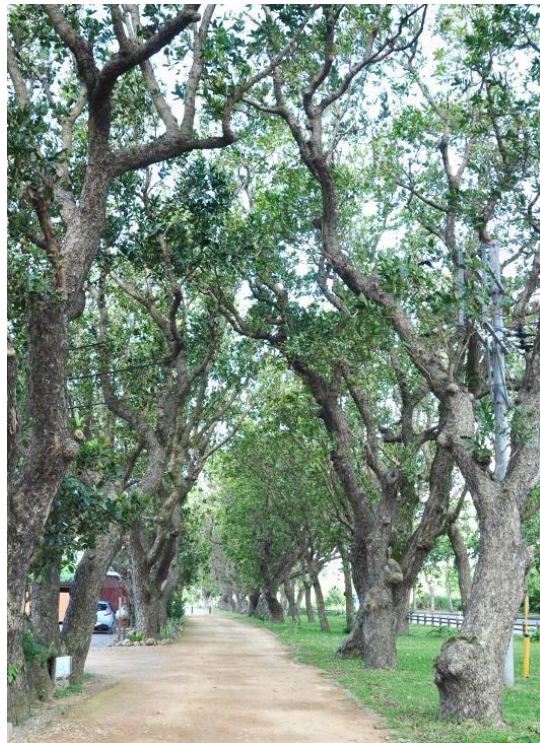
市指定

記念物
【天然記念物】

みやらはまがわぼる
宮良浜川原のヤラブ (テリハボク) 並木
Calophyllum inophyllum

なみき

指定年月日／2010(平成 22)年 3 月 26 日
所在地／宮良 1049-2・外



宮良橋から宮良坂にいたる国道 390 号線南側の旧道路に沿って、ヤラブ (和名: テリハボク) の並木がある。テリハボクは、オトギリソウ科の常緑高木で沖縄、台湾、熱帯アジアに分布している。風雨に強いので、防風防潮林や街路樹として八重山各地に植栽されている。

このヤラブ並木は、明治初期に宮良村の人々によって、旧道路の開通を記念して道路両側に植栽されたのが始まりとされる。現在、ヤラブは 100 本余を数え、胸高直径が 1 m を超えるものが 4 本あり、巨木の樹齢は 100 年を越すものと推定される。

沖縄県の日本復帰にともなう記念事業として、石垣島一周道路の改修がすすめられた際、並木の片側を伐採する計画が持ち上がったが、地元住民の熱心な保護活動により、貴重なヤラブ並木が今に残された。